

日本語相談

二

朝と云ふ、遠い昔がよいのである。

大野晋

藤へてゐる侍の中に、某と云ふ五位があつた。

丸谷才一

それが傳はつてゐない。恐らくは、實際、傳はる資格がな

大岡信

體舊記の著者などと云ふ者は、平凡な

井上ひさし

興味を持たぬ。この點で、彼等と、日本の自

大分ちがふ。王朝時代の小説家は、存外、閑人でない。

日本語相談 二

大野晋

丸谷才一

大岡信

井上ひさし

日本語相談 二

一九九〇年一月二五日 第一刷発行

著者 大野 晋

丸谷才一

大岡 信

井上ひさし

発行者 八尋 舜右

発行所 朝日新聞社

〒104-111 東京都中央区築地五-3-11

電話・〇三-五四五-〇二三一(代)

振替・東京〇一-七三〇
編集・図書編集室 販売・出版販売部

印刷所
製本所

図書印刷
青柳製本

定価はカバーに表示してあります

日本語相談 二 目次

町と街、木と樹、飛と跳などの違い (大野 晋)	11
万国共通の「アー」と「ウー」 (井上ひさし)	15
日一日はヒヒトヒかヒイチニチか (大岡 信)	19
古代人と会話ができるか (大野 晋)	23
「女神の涙」をたたえる「虎が雨」 (丸谷才一)	27
『サラダ記念日』について (井上ひさし)	31
なぜ、古文などを学ぶのか (大野 晋)	35
なぜ、嘘は赤い色をしているのか (大岡 信)	39
句読点の打ち方に決まりはあるか (丸谷才一)	43
セをシ、エと発音して笑われました (大野 晋)	47

- どうして詩を勉強させられるのか (大岡 信) 51
 「である」調と「です、ます」調の混在 (丸谷才一) 55
 一ヶ月の「ケ」はなぜ「か」と読む? (大野 晋) 59
 現代人は繊細な感覚を失ったのか (大岡 信) 63
 「つうかあ」の語源は何でしょう? (丸谷才一) 67
 言葉遊びをする人間は異常なのか (井上ひさし) 71
 和歌を数えるのに首を使うのは? (大岡 信) 75
 …… (リーダー) の使い方について (丸谷才一) 79
 自分が聞くのに「お聞き」とは? (大野 晋) 83
 虫でもないのに虫偏をつけるのは? (井上ひさし) 87

「いいかげん」は良いのか悪いのか(大岡 信).....	90
なぜ「どこえ」と書かないのか(大野 晋).....	94
パーティーや会合でどんな二人称を?(丸谷才一).....	98
方言を正確に文字化できるのか(井上ひさし).....	102
同じ漢字なのに日中で意味が反対(大野 晋).....	106
男より男性のほうが尊称では?(大岡 信).....	110
名文の特性は? 具体的には誰の何?(丸谷才一).....	114
「々」など繰り返し記号の由来は?(大野 晋).....	118
日本語の音はいくつあるのか(井上ひさし).....	122
「ロマン」の本来の意味を知りたい(大岡 信).....	126

手紙の最後にカシコとありますが	(大野 晋)	130
「候文」の歴史を教えてください	(丸谷才一)	134
どうして「上手」「下手」というのか	(井上ひさし)	138
わが竹下首相はカをクワと発音しますが	(大野 晋)	142
どうすれば上手に手紙が書けるか	(大岡 信)	146
「三」に何か特別の意味があるのか	(丸谷才一)	150
簡約日本語はヤメサセマセント!?	(大野 晋)	154
「すみません」だらけの世の中に?	(井上ひさし)	159
花見酒はなぜ桜の樹の下でなのか	(大岡 信)	163
嘘をつく、なというのに嘘をつけとは?	(大野 晋)	167

論文を上手に書くための方法は？（丸谷才一）	171
なぜ、「キラキラ」はカタカナなのか（井上ひさし）	175
「陛下」など尊称になぜ下がつく？（大岡 信）	179
ニューヨークを紐育と書くのは？（丸谷才一）	183
ラ行とパ行の言葉が少ないのは？（大野 晋）	187
連語で、なぜ清音が濁音になるか（井上ひさし）	191
外国固有名詞の漢字の当て方は？（大岡 信）	195
なぜ、平仮名から習い始めるのか（大野 晋）	199
なぜ、女性の名に「子」がつくのか（丸谷才一）	203
日本製漢字について教えてください（井上ひさし）	207

親父、オフクロはどこから来た？ (大野 晋) …………… 211

「耳をそろえて」の耳って何ですか (大岡 信) …………… 215

回答者座談会——あとがきにかえて…………… 219

大野 晋

丸谷才一

大岡 信

井上ひさし

装幀——和田 誠
本文レイアウト——内部 隆

日
本
語
相
談
二

町と街、木と樹、飛と跳などの違い

回答者 大野 晋

問—五一

短歌の本には、同じだろうと思われる字が、それぞれ意味が違うと書いてあります。「町」と「街」、「木」と「樹」、そして「畠」と「畑」、「飛ぶ」と「跳ぶ」、「食う」と「喰う」、「足」と「脚」、「又」と「亦」、「陰」と「蔭」との違いなどを教えてください。

(京都府・森崎浅勝)

•
•

現代日本の普通の使い方ならば、およそのことはいえるでしょう。「町」は都市の中の一つの区画。「街」は都市の大通りのあるところ。「木」は大小の立ち木、木材をくるめていう。「樹」はしっかりと立っている木。「畠」と「畑」の区別はむづかしいでしょう。「飛ぶ」は空中を行くこと。「跳ぶ」は、

はねること。「食う」はクウ、「喰う」はクラウと読むことが多い。「大喰らい」「小言を喰らう」などと、「喰」のほうがよくない意味に使う度合いが大きい。「足」は腿から踵、爪先までをくるめて指す。「脚」は踵まで。英語の「leg」に当たる。「又」は、マタハ、カサネテの場合に書き、「亦」は……モマタと並立するときを書く。「陰」は陽の対。明るくない。ものかげ。「蔭」は木かげの意。こんなところでしょう。

しかし、一歩立ち入って、これらの字が何故そんな意味の違いを表すのかということになると、あまりやさしくありません。

漢字は中国で作られ、紀元前からの、骨や金属に刻んだ資料が残っていますけれど、その古体の字の形と意味の由来を一字ごとに明確にするのは極めてむづかしいのです。漢字研究の専門家が長年にわたって、それぞれの視点から辛苦して究明に努めています。見解の一致するものは必ずしも多くありません。

「町」は田と丁の合字。たんぼの区切り。「街」の「行」の古形は𠂔。十字路の意。「木」の古形は𣎵。枝と幹と根の形。「畠」は「白（水のない）田」の意で、平安時代の『色葉字類抄』という字書に「白田の二字なり。一字に

作るは訛あやまりなり」とあり、「𪗇」は日本製の漢字です。「烟」は火で木草を焼いた「燒キハタ」の意で、これも日本製漢字。だから「𪗇」も「烟」も、漢字音はないのです。

「飛」は鳥が翼を広げてとぶ形。古形は飛。「跳」の兆はトの龜甲に、中央線から左右の割れ目のできた形。従って「跳」は、足で地をけって離れる意でしょう。「喰」は日本製漢字。「足」の口は、ひざがしらの意。その下、爪先までをいう。「又」の古形は又。右手の形で、力を添えて助ける意に使うところから、カサネテとかソノウエの意を表します。「亦」の古形は亦。古は人間の形。その両脇に二点をつけて、ワキノシタを表し、「右にも左にも」の意で、……モマタに使う。「陰」に含まれている「云」の古形は云。もやもやした雲気のまま。それで明るくない意を表した。「蔭」は「陰」に「草冠」を加えて、木かげの意にしたもの。

以上、諸専門家の説の中で私の納得できるところを書いたものです。「樹」「脚」の字源の説明は、どれも私によく分かりませんでした。

この種のごときは、たいていの漢和字典に多少書いてありますが、特に興味をお持ちの方のために参考書を挙げておきましょう。

『漢字語源辞典』藤堂明保 学燈社（九千円）

『漢字の起原』加藤常賢 角川書店（九千七百九円）

『漢字類編』白川静・監、小林博・編 木耳社（八千五百円）

中国河南省で紀元前千五百年頃、トうらなに使っていた獸骨や亀の甲に刻んだ古代文字が近年発見されて、漢字の起源に関する研究は拡大され、細密になりました。しかし今は、まだ個々について、さまざまな見解が表明されている段階です。